

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：教育費 項：教育総務費 目：教育指導費

事業名 地域共創フラッグシップハイスクール事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 学校支援課 総合支援第二係 電話番号：058-272-1111 (内 3679)

E-mail： cl7782@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 19,000 千円 (前年度予算額：19,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	19,000	5,015	0	0	0	0	0	0	13,985
要求額	19,000	5,015	0	0	0	0	0	0	13,985
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

社会の多様な場面でグローバル化が進む中、高等学校は「社会を生き抜く力」の確実な養成を前提とし、日本人としてのアイデンティティや日本の文化に対する深い理解を涵養するとともに、豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神等を身に付けて、地域創生などの様々な分野で活躍できるグローバル・リーダーを育成することが重要である。

(2) 事業内容

地域の関係機関 (自治体・大学・企業等) と連携して、グローバル社会における国際的素養を身に付けるとともに、地域課題を発見・解決する探究的学習や情報発信・実践等の諸活動を通して、地域創生などの様々な分野で活躍できるリーダーを育成するため、県立高等学校9校を「地域共創フラッグシップハイスクール」に指定し、重点的に支援する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	3,415	外部有識者等謝金
旅費	4,862	外部有識者等費用弁償、引率業務
消耗品費	2,614	必要事務用品費
会議費	5	お茶代
印刷製本費	385	報告書等印刷
役務費	404	報告書郵送代、翻訳料、研修企画料
保険料	73	生徒保険料
使用料・賃借料	2,713	バス借上代、成果発表会会場使用料
負担金	10	研修会参加費
交付金	3,919	生徒の研修支援金
委託料	600	外部への講座・研修委託料
合計	19,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・第3次岐阜県教育ビジョン

基本方針1 りふへの愛着をもち、世界に視野を広げ活躍する人材の育成

目標3 国際理解教育の充実とグローバルに活躍する人材の育成

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 地域の魅力を深く知り、関係機関と連携して地域課題を発見・解決することで地域貢献に寄与するとともに、グローバル化の中で、コミュニケーション・問題解決能力等の国際的素養を身に付け、地域創生などの様々な分野で活躍できるリーダーを育成する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目標	達成率
地域や社会をよくするために何をすべきかを考える高校生の割合	34.9% (H30)	(H)	(H)	38.9% (R1)	40% (R2)	%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
- ・国内外大学や企業、自治体等と連携した課題探究学習の実施
- ・海外・国内フィールドワーク等を通じた課題探究学習及び探究の成果発信
- ・地域創生で活躍できるリーダー育成のためのカリキュラムの開発・実践、その体制整備

（前年度の取組）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
- ・グローバルな視点を持ちながら、地域創生で活躍できるリーダーの育成
- ・グローバル化に対応するコミュニケーション能力や課題解決力等の育成

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い 	
(評価) ○	グローバル化の中で、コミュニケーション・問題解決能力等の国際的素養を身に付け、地域創生などの様々な分野で活躍できるリーダーを育成する必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	地域の課題を発見・解決する探究的な学習を通して、地域社会人としての意識の向上につながっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある 	
(評価) ○	各指定校が関係機関や大学と連携し、学校の特性を踏まえながら、事業内容や実施方法について改善を図っている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 選抜性の高い大学への進学が多い高等学校において、ふるさとへの愛着や地域社会人としての意識向上が期待されている。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県立高等学校9校を指定し、連携を図りながら研究に取り組む。また、SSH、SPH、理数教育フラッグシップハイスクールの他のスーパーハイスクールとの交流、情報交換を行う。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	/
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	